

平成22年3月

伊奈雄二郎 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 重 政 千 秋
同 小 川 敏 英

主論文

Local thrombolysis for acute massive pulmonary embolism using a pulse-infusion-thrombolysis catheter

(急性肺塞栓症に対するパルスインフュージョンカテーテルを用いた局所血栓溶解療法)

(著者：伊奈雄二郎、近藤克洋、岩淵成志、延吉正清、神納敏夫、小川敏英)

平成22年 Yonago Acta medica 53巻 17頁～24頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はパルスインフュージョンカテーテルを用いて、急性肺塞栓症に対し局所血栓溶解療法を行い、その有効性及び安全性について検討したものである。その結果、手技成功率並びに予後のいずれにおいても良好な結果が得られ、また薬剤の投与量を最小限に抑えることで、合併症の発生率も最小限に留めることができた。急性肺塞栓症に対しては、血栓溶解薬の投与法が依然として議論されているが、本研究では局所投与の有効性が示されており、明らかに学術水準を高めたものと認める。